

現代英語に観察される進化する新しい定型表現とその実態 —融合形 *in and of itself* と派生形 *in and of* を例として—

井上 亜 依
(防衛大学校)

1. はじめに

最近の英語の傾向として、2つの前置詞を連結させて1つの意味を表す傾向がみられる。特に *in* と *on* はいろいろな前置詞を従え、複合前置詞として新しい機能を持つ。そのようなものは、多くが *be* 動詞の補語の場所に位置する。例えば、*Macmillan English Dictionary 2nd edition* (以後 *MED*²⁾ の *in* の項には *be in at*, *be in for*, *be in on* のような *be* + 複合前置詞・複合不変化詞¹ の例がある。また、*on* の項には *be on about*, *be on at*, *be on for* がある。*Oxford Advanced Learner's Dictionary 8th edition* (以後 *OALD*³⁾ の *in* の項には *be in at*, *be in for*, *be in with*, そして *on* の項には *be on about*, *be on at*, *be on for* がある。このように、辞書にリストされているもの以外も数多くの類似の *be* + 複合前置詞・複合不変化詞の例がある。Corpus of Contemporary American English (以後 *COCA*) を検索すると、*be in of*, *be in to*, *be on against*, *in and of* のような例が頻出する。Inoue (2012) は、そのような例のうち *on against* が複合前置詞であることを述べ、*be on against* の形で定型表現として確立し、その機能、成り立ちを述べた。本研究は、Inoue (2012) の研究の続きとして現代英語に頻繁に観察される (1), (2) の *in and of itself*, (3), (4) の *in and of* に着目する(下線部筆者。以下同じ)。

本稿は、定型表現研究 (phraseology) の観点より、頻繁に観察される *in and of itself*, *in and of* に焦点をあて、*in and of itself* の場合はそれが新しい定型表現 (phraseological units, 以後 PUs) として機能し、*in and of* の場合はその新しい PU が複合前置詞化していることを論証する。

- (1) The static, insular view ascribed to cognitive semantics is deemed incapable of handling the dynamic, intersubjective, context dependent nature of meaning construction in actual discourse. In and of itself, the interactive alternative is certainly correct. It is not however an alternative - its essential ideas are in fact accepted as basic tenets of cognitive semantics. [R. W. Langacker, *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. 2008. Oxford University Press. p. 28]
(.... 認知意味論に属する批判的で偏狭な視点は、行動的で間主観的、実際の発話における構造依存の文脈を扱うのが不可能とみなされる。本質的に双方向の交代は確かに正しい。しかしながら、それは交代ではなく、つまりその必須の考えは実際に認知意味論の基本的教義として認識されている。)
- (2) In this writer's opinion, there are three basic reasons punishment tends to be less effective than reward. First, punishment too frequently causes learners to

develop negative attitudes toward the material being studied. Second, punishment tends to disturb positive relationships (or worsen negative ones) between learners and teachers. Third, in and of itself, punishment does not assist students in learning or practicing correct responses.... [COCA 1994, written]

(この著者の意見では、罰は報酬よりも効果的ではない、という3つの基本的な理由がある。1つ目は、罰は頻繁に学習者に勉強すべき課題に対して、否定的な態度を引き起こす。2つ目は、罰は学習者と教師の間の肯定的な関係(もしくは否定的な関係)をかき乱す傾向にある。3つ目は、本質的に罰は学習者が正しい答えを学ぶもしくは練習する手助けをしない。)

- (3) As will become evident from consideration of the Japanese case, stability in and of capital formation is a crucial variable entering into the organizational calculations from which modes of rationality are constructed. [BNC]

(日本の場合の結果より明らかになるであろうが、資本形成についての安定は、合理性の流儀が構築されるものから組織的な予測に入るのには重要な可変である。)

- (4) Even habits that are worrisome and possibly progressive, such as sex addiction, compulsive gambling, or overdrinking, fall within the spectrum of addictive behavior and not OCD. Like our common, everyday infatuations, says Dr. Saxena, these habits persist “because they are rewarding in and of their own right.” [COCA, 2008, written]

(セックス中毒、強迫性賭博、飲み過ぎなどの厄介かつ進行性の習慣は、中毒行為の範囲に入り、OCDではない。常識、日々の心酔のように、これらの習慣は、それらの権利についての報酬なので続くのです、とサクセナ博士は言う。)

2. 新しいPU - in and of itself

*MED*²には *in itself, of itself* の記述があるが、*OALD*⁸には *of itself* の記述がないので、*in itself, of itself* の用法について英米の違いがあるかもしれない。『ジーニアス英和辞典』4版(以後G⁴)は、(5)に示すように *oneself* の項に in and of itself を記述し、『ロングマン英和辞典』(以後ロングマン)は、*in and of itself* を(6)のように記述している。

- (5) *in oneself* それ自体では、元来、実際は《◆通例事・物についてもちいるので、*itself, themselves* の形》|| | The engine in itself is very good. エンジンそれ自体は非常にいいのです〈◆強調して in and of itself ということがある〉 [G⁴]

- (6) in itself (of itself とも) 本来、本質的に、それ自体
in and of itself それ自体 [ロングマン]

英英辞典の記述と併せて、(5)、(6)の記述より in and of itself の成り立ちについて3つの解釈が可能である。① in and of itself は *in itself* を強調した形、② *in itself* と *of itself* は同じ、③ in and of itself, in itself, of itself は同じ、である。先行研究より明らかにはならなかったが、④ in and of itself は *in itself, of itself* の違いを一緒にまとめた形としてPU化しているのか、

それとも同じ意味の表現を強調のために繰り返しているのか、という疑問が生じる。本節は、①、②、③、④の疑問に答える形で *in itself*, *of itself*, *in and of itself* を検証する。

2.1 *In itself, of itself* の意味と再帰代名詞の機能

英英辞典、英和辞典での *in itself, of itself* についての記述は似ており、「(他のこととは関係なく) 本質的に、それ自体」という意味で、*MED*², *Longman Dictionary of Contemporary English 5th edition* (以後 *LDCE*⁵), 『ロングマン』は *in itself* と *of itself* を区別していない。*MED*² は、*in itself, of itself* をまとめて、“used for emphasizing that what you are saying about one particular thing is true without even considering anything else” (他のことを考えることすらなく、あることについて言おうとしていることが真実であるということを強調するために用いられる) と定義している。*OALD*⁸ と『ユースプログレッシブ英和辞典』(以後『ユース』) には *of itself* の記述はない。*Oxford English Dictionary 2nd edition* (以後 *OED*²) は、*in itself, of itself* のいずれも採録していない。下記に辞書の用例をあげる (訳は省略)。

- (7) a. In itself, it's not difficult problem to solve. [OALD⁸]
 b. Some of the medicines were out of date, which was in itself dangerous. [MED²]
 c. Using someone else's name is not of itself a crime, unless there is an intention to commit a fraud. [MED²]
 d. There is a slight infection in the lung, which in itself is not serious. [LDCE⁵]
 e. The search for truth is valuable in itself. [ユース]

再帰代名詞 (reflexive pronoun) とは、動作が自分自身に及ぶ場合、すなわち主語と目的語とが同一の場合に、その目的語に用いる人称代名詞のことである。再帰代名詞の用法には3つの用法がある。1つは、強調するために使う場合 (e.g. *I broke the window myself*. 私自身が窓を割ったのです。)、動詞の目的語として使われる場合 (e.g. *I will give myself a new car as a Christmas present*. クリスマスプレゼントとして自分自身に車を買うつもりです。)、最後は、前置詞+ ~self (再帰代名詞) でPU化している場合である (e.g. *by myself* (一人で), *beyond themselves* (我を忘れて), *for myself* (自分のために))。 *in itself, of itself* の場合は、3つ目の用法のPU化の用法である。

2.2 *In itself, of itself* の機能

本節は、*in itself, of itself* の機能を下記の (8)~(12) の例を検証しながら述べる。

- (8) Liz Taylor's courage in playing a woman older and (then) fatter than herself in *Who's Afraid of Virginia Woolf?* (1966) was **enough in itself** to win her an Oscar.[BNC] (1966年の「バー吉ニア・ウルフなんか怖くない」で自身よりも年配でふくよかな女性を演じたエリザベス・テーラーの勇気は、それ自体オスカー賞を受賞するのに十分であった。)

- (9) A late-medieval army was, essentially, composed of two groups, those who fought on horseback and those who fought on foot. In itself, the horse was both an arm and a sign of social distinction, as well as a means of transport. [BNC]
 (中世後期の軍隊は、基本的に2つのグループから成り立っていた、1つは騎兵ともう1つは歩兵であった。本質的に、馬は移動手段だけでなく、武器であり社会的な区別のサインでもあった。)
- (10) “Perhaps talking isn’t enough,” Charlie said. Harry fell behind Charlie at that one. The blog in itself had done little damage, and in fact a couple PR reports had highlighted the blog as an innovative user-community approach to coding...” [COCA, 2011, written]
 (「おそらく、話すことだけでは十分ではない」とチャーリーは言った。ハリーはその点においてチャーリーに後れを取ってきた。ブログ、それ自体はほとんど何の被害も及ぼさなかった。そして実際のところ、2つのPR報告書はブログをプログラミングに対して、革新的なユーザーコミュニティのアプローチとして強調した。)
- (11) “... Books have increased in price even more than cigarettes over the past 50 years and caused a lot less harm. Indeed, the message of Lady Chatterley’s Lover, half a century on, is that literature of itself does no **harm** at all...” [COCA, 2010, written]
 (「本は過去50年間、価格がたばこよりも高くなり、与える害もずっと少ないものでした。というよりもむしろ、半世紀を隔てて「チャタレイ夫人の恋人」のメッセージは、文学はそれ自体全く害を与えないということです。)
- (12) Her Majesty exchanges greetings with Patrick White and gets the name of his most famous novel wrong, is bored by the soprano’s aria, but thrilled by the chance to meet “the Olympic champion” and by the post-reception fireworks over Sydney harbour. Of itself, John’s music was less **compelling**. [WB]
 (女王陛下は、パトリック・ホワイトとあいさつを交わし、彼のもっとも有名な小説の名前を間違えた。ソプラノのアリアに飽きていたが、「オリンピック・チャンピオン」に会う機会とシドニー湾でのレセプション後の花火を楽しみにしていた。本質的に、ジョンの音楽は感動的なものではなかった。)

(8) から (12) の *in itself*, *of itself* は、イギリス英語とアメリカ英語コーパスの両方で観察されるので、英米の差はないと考えてよいだろう。頻度は、*in itself* が *of itself* より多く使用される。(8) から (12) の *in itself*, *of itself* の *itself* は再帰代名詞であるので、文脈中のどの名詞を指しているのかをまとめ、その再帰代名詞が前方照応、後方照応のどちらであるかを Table 1 に明記した。

Table 1 (8)~(13) の *in/ of itself* の *itself* が指すもの、照応関係と意味

	パターン	<i>itself</i> の指すもの	照応関係	意味
(8)	<i>in itself</i>	courage	前方照応	それ自体
(9)	<i>in itself</i>	horse	後方照応	本質的に
(10)	<i>in itself</i>	blog	前方照応	それ自体
(11)	<i>of itself</i>	literature	前方照応	それ自体
(12)	<i>of itself</i>	John’s music	後方照応	本質的に

Table 1 より、*in itself, of itself* の共通点を 4 点述べる。

(i) *in itself, of itself* が前方照応、後方照応の場合でも、*in itself, of itself* の再帰代名詞 *itself* は物事を指し示す。

(ii) 統語特徴として、単独で用いられる場合と形容詞もしくは名詞の後に使用される場合の 2 パターンがある。単独で用いられる場合は後方照応であり、形容詞もしくは名詞に後置する場合は前方照応である。その統語特徴の違いが意味に反映されている。

(iii) 後方照応の場合は、その特徴であるサスペンスを構築し、これから言おうとすることに説明を与えることができるという修辭的効果のために後方照応が用いられている。後方照応の場合、*in itself, of itself* は独立して用いられる。

(iv) 前方照応の場合の *in itself, of itself* は、形容詞もしくは名詞の後に用いられる。4 点の共通事項について説明していく。(ii), (iii) について。例えば、後方照応の例である (9) の *in itself* と (12) の *of itself* の場合、(9) は戦争には 2 つのグループがあることを説明した後、その 1 つのグループが用いる馬について説明している。(12) の場合は、女王陛下の様子を細かく説明した後、とりわけジョンの音楽が感動的ではなかったことを *of itself* を使用することにより、サスペンスを与え説明している。

(iv) の前方照応の例を見ていこう。わかりやすい (8) の例を説明していく。(8) の *itself* は、女優のエリザベス・テーラーが映画で演じた役についての彼女の勇気を指しており、その勇気はオスカー賞を受賞するほどのものであったと強調的に使用されている。その他の前方照応の例 ((10), (11)) も、*itself* が指す名詞を強調するために使用されている。また、コーパスの例を観察すると、*in itself, of itself* とともに *not in/of itself* の否定形で使用されることが多い。*not* のような否定語がない場合でも、(10) のように *little* などの否定を示す語が存在する。

以上の 4 点より、*in itself* と *of itself* は機能的・意味的に相違がないように思える。しかし、*in itself = of itself* ではない。上記の (8) ~ (12) の例より、*in itself* は単に *itself* が指す名詞を強調するものとして使用されている。一方 *of itself* は、*itself* が指す名詞の特徴を述べる形容詞が存在する。例えば、*of itself* の例である (11), (12) を観察すると、それぞれの *itself* は *literature, John's music* を指す。そして、その名詞 (句) の近くに、その名詞 (句) の特徴を述べる太字で示した形容詞 (*harm, compelling*) がある。これは、*of* の本来の機能の 1 つである「性質・状態」の機能が保持されていると考える。このように、*of itself* は再帰代名詞 *itself* が指す物事のありさま、性質などを述べるために使用される。この特徴に照らし合わせると、 G^4 の用例 *The engine in itself is very good.* は、*in itself, of itself* の違いを正しく反映した適切な用例とは言い難い。*The engine of itself is very good.* が好ましい。しかし、(8) の例のように *in itself* も形容詞 (太字の *enough*) が観察される場合もあるが、筆者が調べた限り、このような例は非常に稀である。

このことから、② *in itself* と *of itself* は同じであるか? という問いに対しての答えは、*in itself, of itself* は、意味的違いを際立たせるのは難しいが、機能的には大きく異なるので NO である。*in itself, of itself* の相違・類似をまとめたものが (13) である。

- (13) a. *in itself, of itself* の再帰代名詞 *itself* は文脈中にある物事を指し示す
b. *in itself, of itself* は、単独で用いられる場合と形容詞もしくは名詞の後に使用され

- る場合がある。前者の場合は後方照応、後者の場合は前方照応である
- c. 後方照応の場合、修辭的効果のために用いられる
 - d. 前方照応の場合、形容詞もしくは名詞の後に用いられる
 - e. *in itself, of itself* とも、否定の文脈で使用される傾向にある
 - f. *in itself* は、再帰代名詞 *itself* が指す名詞を強調する
 - g. *of itself* は、再帰代名詞 *itself* が指す名詞のありさま、性質を述べる

2.3 *In and of itself* の機能

本節は、コーパスに観察される *in and of itself* の用例を検証しながら、その機能を明確にしていく。(14), (15) は (1), (2) を再録したものである。訳は (1), (2) を参照されたい。また、英米の違いがあるのかどうかを探るため、各例の出典にはイギリス英語 (British English, 以後 BrE)、アメリカ英語 (American English, 以後 AmE) を記載した。

- (14) The static, insular view ascribed to cognitive semantics is deemed incapable of handling the dynamic, intersubjective, context dependent nature of meaning construction in actual discourse. In and of itself, the interactive alternative is certainly **correct**. It is not however an alternative—its essential ideas are in fact accepted as basic tenets of cognitive semantics. [R. W. Langacker, Cognitive Grammar: A Basic Introduction, 2008. Oxford University Press. p. 28]
- (15) In this writer's opinion, there are three basic reasons punishment tends to be less effective than reward. First, punishment too frequently causes learners to develop negative attitudes toward the material being studied. Second, punishment tends to disturb positive relationships (or worsen negative ones) between learners and teachers. Third, in and of itself, punishment does not assist students in learning or practicing correct responses.... [COCA 1994, AmE, written]
- (16) Both are necessary. We also need some technique to earth Christian character into the situation at hand. Without some amount of what can be called "relationship skill" we will commit many "well-meaning blunders" which can cause a lot of hurt. Conversely, all of the technique or relationship skill in the world is useless in and of itself.... [BNC, BrE, written]

(両者とも必要である。また、クリスチャンの性格をすぐ近くに迫った状況になじませる技術をも必要である。「関係のスキル」と呼ばれているものがないと、多くの痛みを引き起こす善意から出た大失態をおかすであろう。逆に、世界中のすべての技術スキルもしくは関係のスキルは、それ自体、意味がない。)

- (17) But the question remains: why is it important? Is sexist language just an offensive reminder of the way the culture sees women, as nonentities and scapegoats? Or is it positively **harmful in and of itself**? [BNC, BrE, written]
- (しかし、質問は残っている。なぜそれは重要なのか？性差別語は、文化が女性を取るに足りない存在そして犠牲者として見ているという侮辱的に気付かせるものなのか？

もしくは、性差別語はそれ自体、有害なのか?)

- (18) Arabs and Israelis will meet next week in Madrid to talk about peace, an event many people consider to be **amazing in and of itself** regardless of the final outcome....

[WB, AmE, spoken]

(アラブとイスラエルは平和について話すために来週マドリッドで会い、どのような最終結果にもかかわらず、多くの人々がそれ自体驚くことだと考えている出来事である。)

(14) から (18) の用例より、*in and of itself* は AmE, BrE の両方で観察されるので AmE と BrE における使用の差は関係ないと考えるてよいだろう。前節の *in itself, of itself* 同様に、*in and of itself* の *itself* は再帰代名詞であるので *itself* は各例で何を指すのか調べ、また照応関係と *in and of itself* の意味をまとめたものが Table 2 である。*in and of itself* は、*in itself* ほど頻繁に使用されないが、*of itself* よりは多く観察される。

Table 2 (14)~(18) の *itself* の指すもの、照応関係と意味

	<i>itself</i> の指すもの	照応関係	意味
(14)	the interactive alternative	後方照応	本質的に
(15)	punishment	後方照応	本質的に
(16)	all of the technique or relationship skill in the world	前方照応	それ自体
(17)	sexist language	前方照応	それ自体
(18)	an event many people consider to be amazing	前方照応	それ自体

Table 2 より、*in and of itself* の特徴は下記の通りである。

- (19) a. *in itself, of itself* の時と同様に、*in and of itself* が前方照応、後方照応であろうが、*in and of itself* の再帰代名詞 *itself* は文脈中の物事を指す
 b. 統語特徴として、単独で用いられる場合と形容詞もしくは名詞に後続する場合がある。前者の場合は後方照応、後者の場合は前方照応である
 c. 後方照応の場合は、修辭的効果のために用いられる
 d. 前方照応の場合、形容詞もしくは名詞の後に用いられる

後方照応のわかりやすい例 (15) を説明する。(15) は *punishment* の学習における 3 つの働きを述べている。その *in and of itself* は、その後に現れる *punishment* を示しその 3 つ目の働きを述べている。これまで第一、第二の *punishment* の働きで何度もその単語を使用しているので、第三でも *punishment* だけを用いればよいが、*in and of itself* を使用して、*punishment* の 3 つ目の働きを強調的に説明していると捉えることができる。そのように強調的に説明していると考えられる理由は、*in and of itself* がなくともこの文は容認可能であるからである。(15) の *in and of itself* は、*punishment* の近辺にそのありさまを表す形容詞が観察されないの、*in itself* の特徴が際立った例と考える。

(14) の *in and of itself* も後方照応で、*the interactive alternative* にサスペンスを与えるとという点で強調的に使われているといえる。また (14) の場合は、*the interactive alternative* を形

容する *correct* (太字表記) が観察されるので、この *in and of itself* は *of itself* の特徴も兼ね備えている。

次に前方照応のわかりやすい例 (17), (18) を説明しよう。(17) は、性差別語についての文脈である。その性差別語によって引き起こされる女性の立場を述べているが、そのような状況はその性差別語自体が有害であるからなのかというように性差別語に着目し、それを際立たせるために *in and of itself* を使用している。後方照応の場合と同様に、そのように考える理由は *in and of itself* ない文でも容認可能であるためである。また (17) の *in and of itself* は、*of itself* の特徴が色濃く出ている。*of itself* の特徴である *itself* の内容の様態を示す形容詞(太字表記の *harmful*) が存在しているからである。

(18) は、どのような結果になろうとも多くの人々が驚く出来事(アラブとイスラエルが平和について話すために来週マドリッドで会うこと)を強調するために *in and of itself* を用いていると考える。これも (15), (17) 同様に *in and of itself* がなくともこの文は容認可能である。そして、この *in and of itself* も *itself* が指す名詞のありさま (*amazing*) を表す語が観察されることより、*of itself* の特徴も兼ね備えている。

ここで取り上げなかった (16) の *in and of itself* も再帰代名詞が指す物事を強調するという *in itself* の特徴と、その再帰代名詞が指す内容を形容する語句(太字表記)が観察されるという *of itself* の特徴も持っている。上記の *in and of itself* は、*in itself*, *of itself* と異なり、*not in and of itself* はあまり観察されない。

前節と本節で得られた結果をまとめたものが Table 3 である。

Table 3 *in itself*, *of itself*, *in and of itself* の実態

	機能	前方照応	後方照応	形容詞あり
<i>in itself</i>	<i>itself</i> が指す事柄を強調	○	○	×
<i>of itself</i>	<i>itself</i> が指す事柄のありさま・様子を述べる	○	○	○
<i>in and of itself</i>	<i>itself</i> が指す事柄を強調し、そのありさま・様子を述べる	○	○	○

Table 3 より、*in and of itself* は *in itself*, *of itself* の特徴を兼ね備えた PU ということがわかる。本節の冒頭で設けた①～④の回答は (19) の通りである。

- (20) ① *in and of itself* は *in itself* を強調した形 → NO
 ② *in itself* と *of itself* は同じ → NO
 ③ *in and of itself*, *in itself*, *of itself* は同じ → NO
 ④ *in and of itself* は *in itself*, *of itself* の違いを一緒にまとめた形として PU 化しているのか、それとも同じ意味の表現を強調のために繰り返しているのか → *in and of itself* は *in itself*, *of itself* の違いを一緒にまとめた形として PU 化

このように *in itself*, *of itself*, *in and of itself* は、これまでの先行研究で言われていたこととは異なり、各 PU とも独自の機能を持つ。

2.4 *In and of itself* の成立

本節は、2.2 節、2.3 節で得られた結果を踏まえて、なぜ *in and of itself* が使用されるようになったのか述べる。

in itself, of itself は各自の機能を持つが、統語的に似た特徴を持つので *in itself, of itself* を使い分けることは難しい。そして *in and of itself* は、*in itself, of itself* の両者の特徴を兼ね備えた機能を持つ *in itself* と *of itself* の中間に位置する PU である。これは、融合で説明が可能である。

八木 (1999: 108ff.) では、融合に 3 タイプ (統語機能の融合、複数の意味がひとつの統語形式によって表される融合、意味・統語的融合) を認めている。*in and of itself* の場合は、融合の 2 つ目のタイプ (複数の意味がひとつの統語構造で表されるという融合) の働きにより、同じ意味を表すフレーズ *in itself, of itself* の前置詞を重ねた新たな PU といえる。

2.5 インフォーマント調査

本節は、本研究で得られた結果が支持されるかどうか英語母語話者 (アメリカ人 3 名、カナダ人 2 名、イギリス人 1 名) に下記の質問をした。その結果が Table 4 である。

Could you fill in the blanks choosing either *in itself, of itself*, or *in and of itself*?

- (21) a. Liz Taylor's courage in playing a woman older and (then) fatter than herself in *Who's Afraid of Virginia Woolf?* (1966) was enough () to win her an Oscar.
- b. A late-medieval army was, essentially, composed of two groups, those who fought on horseback and those who fought on foot. (), the horse was both an arm and a sign of social distinction, as well as a means of transport.
- c. Her Majesty exchanges greetings with Patrick White and gets the name of his most famous novel wrong, is bored by the soprano's aria, but thrilled by the chance to meet "the Olympic champion" and by the post-reception fireworks over Sydney harbour. (), John's music was less compelling.
- d. From this perspective, the remedy lies not so much in providing personal help as in attempting reconcile the activities of women and the values of society more effectively. Most people would agree that parenthood is not () a sufficient explanation for severe stress symptoms and degree of depression among young mothers.
- e. First, punishment too frequently causes learners to develop negative attitudes toward the material being studied. Second, punishment tends to disturb positive relationships (or worsen negative ones) between learners and teachers. Third, (), punishment does not assist students in learning or practicing correct responses.
- f. Arabs and Israelis will meet next week in Madrid to talk about peace, an event many people consider to be amazing () regardless of the final outcome. The conflict between Israel and the Palestinian people living in the territories occupied by Israel since the war in 1967 is just about the most intractable and possibly dangerous of these times.

Table 4 (21) の結果

	<i>in itself</i>	<i>of itself</i>	<i>in and of itself</i>	<i>others</i>	<i>sum</i>
(21a)	3	0	2	<i>in itself/ in and of itself</i> 1	6
(21b)	2	0	3	<i>in itself/ in and of itself</i> 1	6
(21c)	0	3	2	<i>no answer</i> 1	6
(21d)	3	0	2	<i>in itself/ in and of itself</i> 1	6
(21e)	2	1	2	<i>in itself/ in and of itself</i> 1	6
(21f)	2	0	3	<i>in itself/ in and of itself</i> 1	6

Table 4 の色つきコラムは、コーパスで使用されている答えである。この結果より次のことがわかる。

(i)(21a) の *itself* が示す名詞 (*courage*) を強調する場合と (21b) の *in itself* の再帰代名詞 *itself* の性質を表す語句がない場合は *in itself* が選択される。

(ii)(21c) を除き *of itself* は選択されることがあまりなかったことと *of itself* の頻度回数の少なさより、*of itself* は馴染みの浅い PU のようである。しかし、(21c)(*itself* の名詞が示す物事の様子・ありさまを表す形容詞が存在) の回答より、英語母語話者は *in itself*, *of itself* を区別していることがわかる。換言すると、本研究で得られた結果 (*in itself* ≠ *of itself*) が支持されたことがわかる。

(iii)(21e) の回答より、*in itself*, *of itself*, *in and of itself* のどの PU も可能と答えた英語母語話者がいる。これは、*in and of itself* が *in itself*, *of itself* の特徴を兼ね備えた PU であるという結果を支持するものである。

このような結果より、本研究で得られた (19) はほぼ支持された。

3. *In and of* に後続する要素

COCA, BNC, WB を使用して *in and of* に後続する要素を調べた結果が Table 5 である。その Table より、*in and of* は *itself* 以外の再帰代名詞と名詞 (句) を従えることがわかる。次節では、次の 2 つのリサーチ・クエスチョン (i) なぜ *in and of* は *itself* 以外の再帰代名詞を従えるのか、(ii) パタン [*in and of* + 名詞 (句)] は、どのような機能と意味をもつのか、を明らかにする。

Table 5 *in and of* に後続する要素の数とその割合 - COCA 最初の 200 例、BNC, WB の場合

後続する要素	number	percentage
+ <i>itself</i>	187	76
+ <i>themselves</i>	45	18.3
+ 名詞 (句)	11	4.5
+ <i>himself</i>	2	0.8
+ <i>herself</i>	1	0.4
sum	246	100

4. *In and of* + 再帰代名詞

ここでは、リサーチ・クエスチョン (i) に答える。また、パタン [*in and of* + *itself* 以外の再帰代名詞] が機能的に *in and of itself* と同じなのかどうかも考察する。

2.4節で説明したように、*in and of itself*は*in itself, of itself*の融合によりできたPUである。この*itself*の影響により、*in and of*にその他の再帰代名詞が後続するようになったと考える。(22)～(24)に示すように、*itself*以外の再帰代名詞を従えた例が観察される。

- (22) ... it becomes part of the person, almost like part of their body, and getting rid of it feels like they're losing something really significant. But neither of those behaviors are, in and of themselves, pathological. [COCA, spoken, 2010]
 (...それは人の一部分となり、ほとんど体の一部分のようである、それを取り除くことは何か大切なものを失う感覚である。しかし、それらの行為のどちらも、両方それぞれ自体、病的である。)
- (23) ... His popularity was not high. It has climbed during all of this. And he made a decision in and of himself that they would broadcast this to the world because he was confident it was going to work.... [COCA, spoken, 2010]
 (...彼の人気はそれほどではなかったが、人気はこの期間中に上がっていった。そして彼は、それがうまくいくという自信があったので彼らはこれを世界に放送するだろうと自身で勝手に決め込んでいた。)
- (24) '... You see, my dear Gerard, my toilets are all clogged up, and I desperately need you to repair them' For Gerard, Duras was an education in and of herself. [WB]
 ('... ご覧のとおり、愛しのジェラルド、トイレが詰まっているんだよ。是が非でもそれらを修理したいんだ。' ジェラルドにとって、デュラスは彼女自体教育的なんだよ。)

(22)の*themselves*は*those behaviors*を指し、(23)と(24)の*himself*と*herself*は、各文の主語と一致する。すべての再帰代名詞は、形容詞もしくは名詞の後に用いられ、前方照応である。*in and of itself*と類似して、パターン [*in and of* + *itself* 以外の再帰代名詞] は再帰代名詞が指す物事の根本的な性質にかかわるさまを表しており、意味は「～自体」である。[*in and of* + *itself* 以外の再帰代名詞] の場合、*itself*が指す物事の様態を表す形容詞が観察されることがある。このことから、[*in and of* + *itself* 以外の再帰代名詞] は、再帰代名詞が指す名詞の内容を強調し、そのありさま、様子を述べるために使用されている。

5. 新しい複合前置詞 (complex prepositions, CPs) – *in and of*

本節では、リサーチ・クエスション(ii) パターン [*in and of* + 名詞 (句)] は、どのような機能と意味をもつのかに焦点を当て、*in and of*が複合前置詞化していることを述べる。

5.1 複合前置詞とは何か

ここでは、複合前置詞 (complex preposition, 以後 CP) がどのようなものか概観する。

前置詞は形態的に3つのタイプに分けられる。① *at, in, of* などの多義をもつ単独前置詞、② *into, onto, within, until, in front of* などの2つまたはそれ以上の前置詞が結合した多義を持つ複合前置詞、③前置詞と他の語が結合して、しかも1つの前置詞の働きをする単義の群前置詞 (e.g. *according to, apart from, in accordance with, with regard to, due to, because of,*

result of, in agreement with, in case of など)である。

Quirk *et al.* (1985)、Akimoto(1999)、秋元(2002, 2005)、Quirk & Mulholland (1968)、Hoffman (2001, 2004, 2005)、Tottie and Hoffman (2001) は、群前置詞を複合前置詞 (complex preposition) と呼び、前置詞+名詞などから成り立ち、全体として1つの前置詞として機能するものと定義し、研究をしている。それらの研究の多くは、複合前置詞の文法化について扱っている。

本稿は、「前置詞+ (ある要素) +前置詞」から成り立つものを複合前置詞と呼び、文脈に応じて多義を発生させる場合もある PUs と定義する。Quirk *et al.* (1985)、Akimoto(1999)、秋元(2002, 2005)、Quirk & Mulholland (1968)、Hoffman (2001, 2004, 2005)、Tottie and Hoffman (2001) で扱っている複合前置詞は、本稿では安井(1983)に準拠し「群前置詞」と呼ぶ。

5.2 *in and of* の意味と成り立ち

本節は、コーパスより得られた *in and of* の例をもとに、*in and of* の意味と機能を明らかにする。筆者が調べた限り、これまでの先行研究で *in and of* を扱ったものはない。しかし、(25) ~ (29) に示すように *in and of* の例は現代英語では頻繁に観察される。(25), (26) の訳は (3), (4) を参照されたい。

- (25) As will become evident from consideration of the Japanese case, stability in and of capital formation is a crucial variable entering into the organizational calculations from which modes of rationality are constructed. [BNC]
- (26) Even habits that are worrisome and possibly progressive, such as sex addiction, compulsive gambling, or overdrinking, fall within the spectrum of addictive behavior and not OCD. Like our common, everyday infatuations, says Dr. Saxena, these habits persist “because they are rewarding in and of their own right.” [COCA, 2008, written]
- (27) The national origin of the agents of media control is not the point. Many TNCs in and of the Third World, and even some in and of the Second World, have entirely independent systems of communication and, of course, more or less all sovereign states run their own mass media. [BNC]
(媒体管理代理店の国籍は問題ではなかった。第三世界についての多くの TNC, 第二世界についてのいくつかの TNC でさえ、コミュニケーションの確固たる独立したシステムを持っていた。もちろん、おおよそすべての主権国家が独自のマス・メディアを経営している。)
- (28) We should listen to people’s stories and help them see the value in and of their life experiences.... [COCA, 2006, written]
(人々の話を聞いて、それらが人生経験についての価値を分かるのに役立つ。)
- (29) That is, when ideas are detached from the creative and imaginative ways in which they were generated, they become stoic representations and passionless entities. They become fact without connection to the struggle in and of life.... [COCA, 2005, written]

(つまり、アイデアが作り出された想像的・空想的な方法より切り離された時、それらは平然とした表現であり、情熱のない物体である。それらは生活について戦いがない事実となる。)

(25)～(29)の例を観察すると、*in and of*は名詞(句)を従えていることより、複合前置詞として機能する。

それでは*in and of*の意味を考えていこう。(25)～(29)の例より、*in and of*の前に位置する単語もしくは句により示された性質・状態は、意味的に*in and of*に後続する名詞(句)を限定している。例えば、(25)の*stability*は*capital formation*の限定的な属性であり、総称的に用いられているわけではない。同様に、(26)の場合、*rewarding*は意味的に*their own right*に関連したものであり、総称的なものではない。(27)の場合、*TNC's*の性質は*the Third World*と*the Second World*に限定的なものである。同様の理解が、(28), (29)に当てはまる。(28), (29)の*value, struggle*の性質は、*their life, life*に限定したものである。そして、A *in and of* Bは前置詞*concerning*と似た意味、「BについてのA」という意味で用いられる。

*in and of*はどのような過程を経て形成されたのだろうか。本来は、PUとして[*in and of itself*]が使用されていた。しかし、*in and of itself*が頻繁に使用されるにつれて、*in and of*に後続する要素が変数を持ち*itself*以外の再帰代名詞を持つパターンができた。そして、その変数は再帰代名詞だけではなく、名詞(句)のパターンもできた。そうして、*in and of*が独立した1つのPUとして使用されるようになり、独自の意味・機能を持つようになったと考える。

*in and of*の意味の獲得は次のように考える。*in, of*の広範囲に及ぶ機能のうち、本稿で扱っている*in and of*の*in*は、*vary in size*(大きさが異なる)、*be strong in English*(英語が得意だ)のように性質、数量、能力を限定する働きである。一方*of*は、*the Queen of England*(イギリス女王)、*the secret of success*(成功の秘訣)のように所有・所属関係を表す。前述したが、A *in and of* Bは「BについてのA」という意味で使用される。これは*in*の働きによりAの性質、状態が限定され、また*of*の機能によりAはBの一部であるという2つの機能が合わった結果*in and of*となったと考える。

6. 結語

本研究は、*in itself, of itself*の融合によりできた*in and of itself*の実態を明らかにすることよりはじめ、最近の英語の傾向として観察される2つの前置詞を連結させて1つの意味を持つPUとして*in and of*を扱い、それらが複合前置詞化していることを述べた。また、複合前置詞化として新たな意味を獲得するプロセスをも述べた。

謝辞

*本稿は、2012年10月6日(土)に開催された日本英語コミュニケーション学会第21回年次大会(於:大阪商業大学)での口頭発表に加筆・修正を加えたものである。貴重なコメントをくださった八木克正氏(関西外国語大学)と神崎高明氏(関西学院大学)には心より御礼申し上げる。

*本稿は、平成 24 年度 JSPS 科研費（挑戦的萌芽研究）(24652097) と平成 23・24 年度特別研究（防衛大学校）の助成を受けたものである。日本学術振興会と防衛大学校には感謝申し上げる。

Note

¹ 複合前置詞は後続に名詞（句）を従えるものを指し、複合不変化詞は後続に目的語を取らないものを指す。

References

Corpora

BNC: British National Corpus

WB: WordBanks*Online*

COCA: The Corpus of Contemporary American English

Dictionaries

*G*⁴: 『ジーニアス英和辞典』第 4 版. 2010. 東京: 大修館書店.

*LDCE*⁵: *Longman Dictionary of Contemporary English*. 5th edition. 2008. London: Longman.
ロングマン: 『ロングマン英和辞典』2007. 東京: 桐原書店.

*MED*²: *Macmillan English Dictionary*. 2nd edition. 2007. Oxford: Macmillan Education.

*OADL*⁸: *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 8th edition. 2010. Oxford: Oxford University Press.

*OED*²: *Oxford English Dictionary*, 2nd edition. 2009. CD-ROM version 4.0. Oxford: Oxford University Press.

ユース: 『ユースプログレッシブ英和辞典』2004. 東京: 小学館.

Books and Papers

Akimoto, M. 1999. 'Idiomatization and grammaticalization of complex prepositions.'
In Shin Ja J. Hwang & Arle R. Lommel (eds.) *The Twenty-second LACUS Forum XXV*, 389-397.

秋元実治. 2002. 『文法化とイディオム』東京: ひつじ書房.

秋元実治. 2005. 「シンポジウム 複合前置詞について」『英語語法文法研究』第 12 号. 東京: 開拓社, 5-18.

Hoffman, S. 2001. 'In (hot) pursuit of data: Complex prepositions in late modern English.'
In Collins, P. and A. Smith (eds.) *New Frontiers of Corpus Research*. Amsterdam: Rodopi, 127-146.

Hoffman, S. 2004. 'Are low-frequency complex prepositions grammaticalized?: On the limits of corpus data – and the importance of intuition.' In Lindquist, H. and C. Mair. (eds.) *Corpus Approaches to Grammaticalization in English*. Amsterdam: JohnBenjamins Publishing Company, 171-200.

- Hoffman, S. 2005. *Grammaticalization and English Complex Prepositions: A Corpus-Based Study*. London: Routledge.
- Inoue, A. 2012. 'A study of complex prepositions – *be on against* as an example' A presentation read at European Society for Phraseology (EUROPHRAS) 2012 27/8/2012 – 31/8/2012 University of Maribor.
- Langacker, R. W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Quirk, R. and J. Mulholland. 1968. 'Complex prepositions and related sequences.' In Quirk, R. *Essays on the English Language: Medieval and Modern*. London: Longman, 148-160.
- Tottie, G. and S. Hoffman. 2001. 'Based on: From dangling participle to complex prepositions.' In Aijmer, K. (ed.) *A Wealth of English*. Gothenburg: Gothenburg University, 1-12.
- 安井稔 . 1983. 『改訂版 英文法総覧』東京：開拓社 .
- 八木克正 . 1999. 『英語の文法と語法－意味からのアプローチ』東京：研究社出版 .